コロナ危機に直面する私たちのウェルビーイング

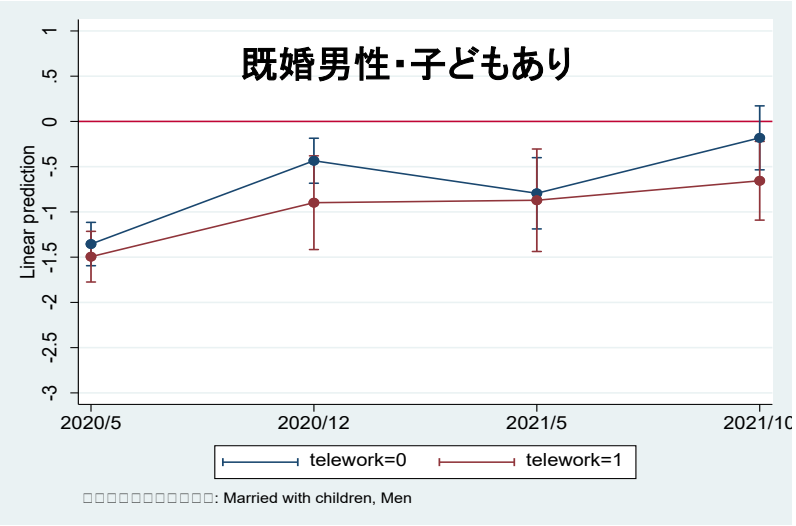
2023年２月９日
2022年度一橋大学政策フォーラム・ESRI政策フォーラム

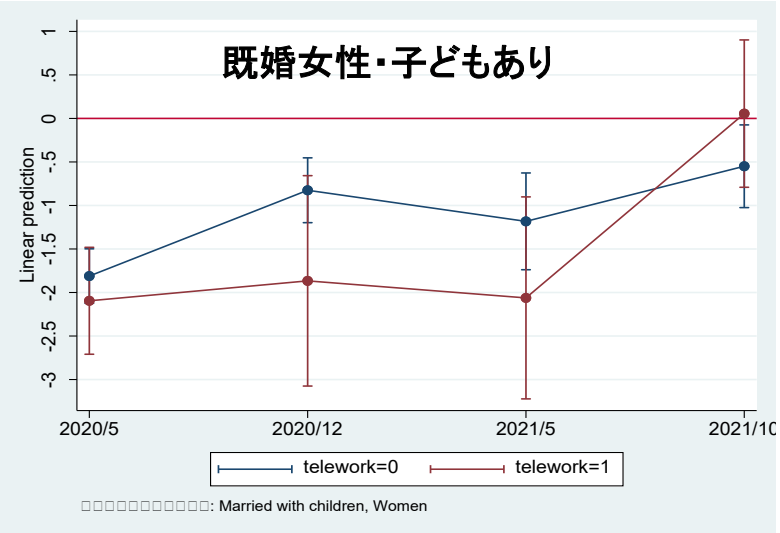
一橋大学経済研究所
世代間問題研究機構
松下　美帆

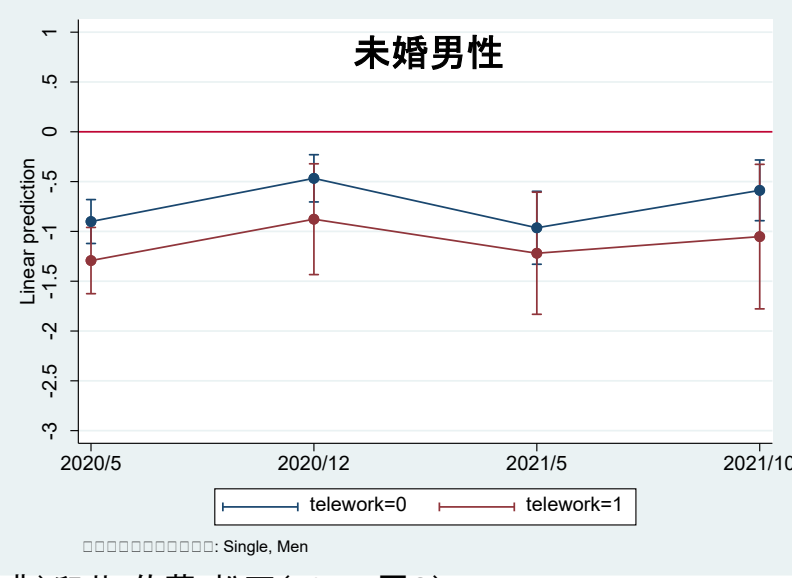
内閣府調査から、コロナ禍でのテレワーク普及と生活満足度を分析

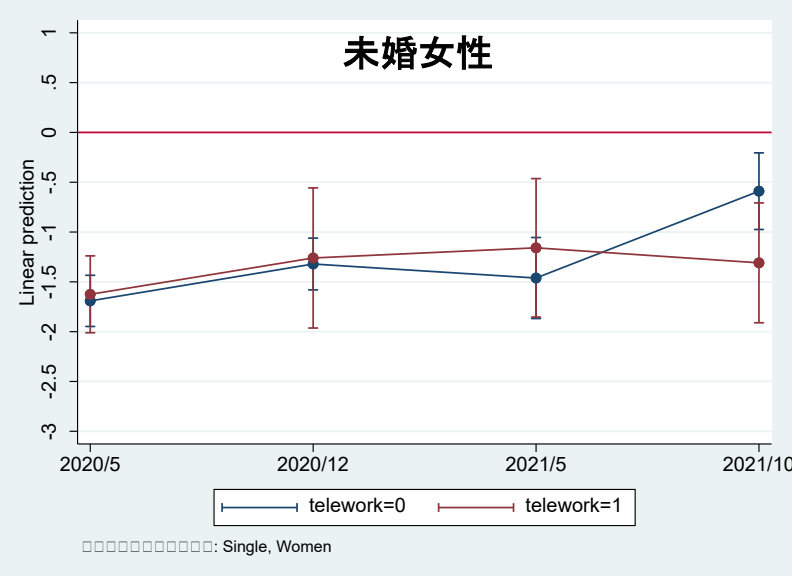
〇子育て面での女性の満足度回復が遅れる

〇未婚男性はテレワークで社会的つながり満足度が低下　（テレワークを実施した未婚男性は、テレワーク非実施の未婚男性と比べて社会的つながりの満足度が0.4ポイント低い）









（出典）臼井・佐藤・松下（2022、図3）

最新の海外事例

国名	特徴
イギリス	・ 2010年からダッシュボード構築 ・ 「個人のウェルビーイング」ほか合計10分野44指標で計測（うち主観指標は20（45%）） ・ 国民のウェルビーイングの状態の変化や、コロナ禍や物価上昇の影響など、横断的に分析 ・ 政策立案の指針となるGreen Book（財務省作成）でウェルビーイングを社会的費用便益分析の基準に採用
フランス	・ 2015年予算法改正で予算編成プロセスにウェルビーイング指標（NWI）を組み込むことを法定 ・ NWIとして、有識者の検討やパブコメを経て、3分野10の指標を選定 ・ 政府は、政府予算案を国会に提出する際、NWIの過去数年間の動向NWI指標とGDPの変化、直近の主要改革の影響と見通しを、定性的、定量的に評価し、国会に提出、報告
イタリア	・ 2016年予算法改正で、ウェルビーイング指標の動向と見通しを予算関連書類の一部として議会に提出すると法定 ・ 2016年から経済財政省が12の指標の動向と見通しを分析、国会に報告 ・ ISTATは、12分野153の指標でダッシュボードを作成（うち主観指標は25（16%）） ・
ニュージーランド	・ Public Finance Act（予算法）を改正し、2019年から政府予算をWellbeing Budgetとし、優先事項を5つ設定 ・ 財務省は、有識者や市民との議論、パブコメを経てダッシュボードLiving Standards Frameworkを構築。現在は22分野95の指標で構成（うち主観指標は22（23%）） ・ 財務省は22年、法に基づき初の「Wellbeing Report」を公表。NZの人々のウェルビーイングの強みや弱点を改善・悪化しているか等を分析

（出典）松下（2023）をもとに編集

最新の海外事例からの示唆

- 「生活満足度」で主観的ウェルビーイングが計測できているか

- ウェルビーイング指標を政策に活用するには

主観的ウェルビーイングを計測する3つのアプローチ

Ⅰ．自身の生活・人生の評価

「最近のあなたの生活に、あなたはどの程度満足していますか」

Ⅱ．自身の人生の意義・目的に照らした評価（ユーダイモニア的）

「あなたは、あなたが生活でしていることは価値があると、どの程度、感じますか」

Ⅲ．心地よさ・不安などの感情に関する評価（ヘドニア的）

「昨日、あなたはどの程度幸せだと感じましたか」

「昨日、あなたはどの程度不安だと感じましたか」

（出典）カナダ財務省（2021年4月）“Toward a Quality of Life Strategy for Canada”（2021年4月）、英国王立統計局「Opinions and Lifestyle Survey」の質問項目を参照して作成

ウェルビーイング、主観的ウェルビーイング、生活満足度

ウェルビーイング

主観的ウェルビーイング

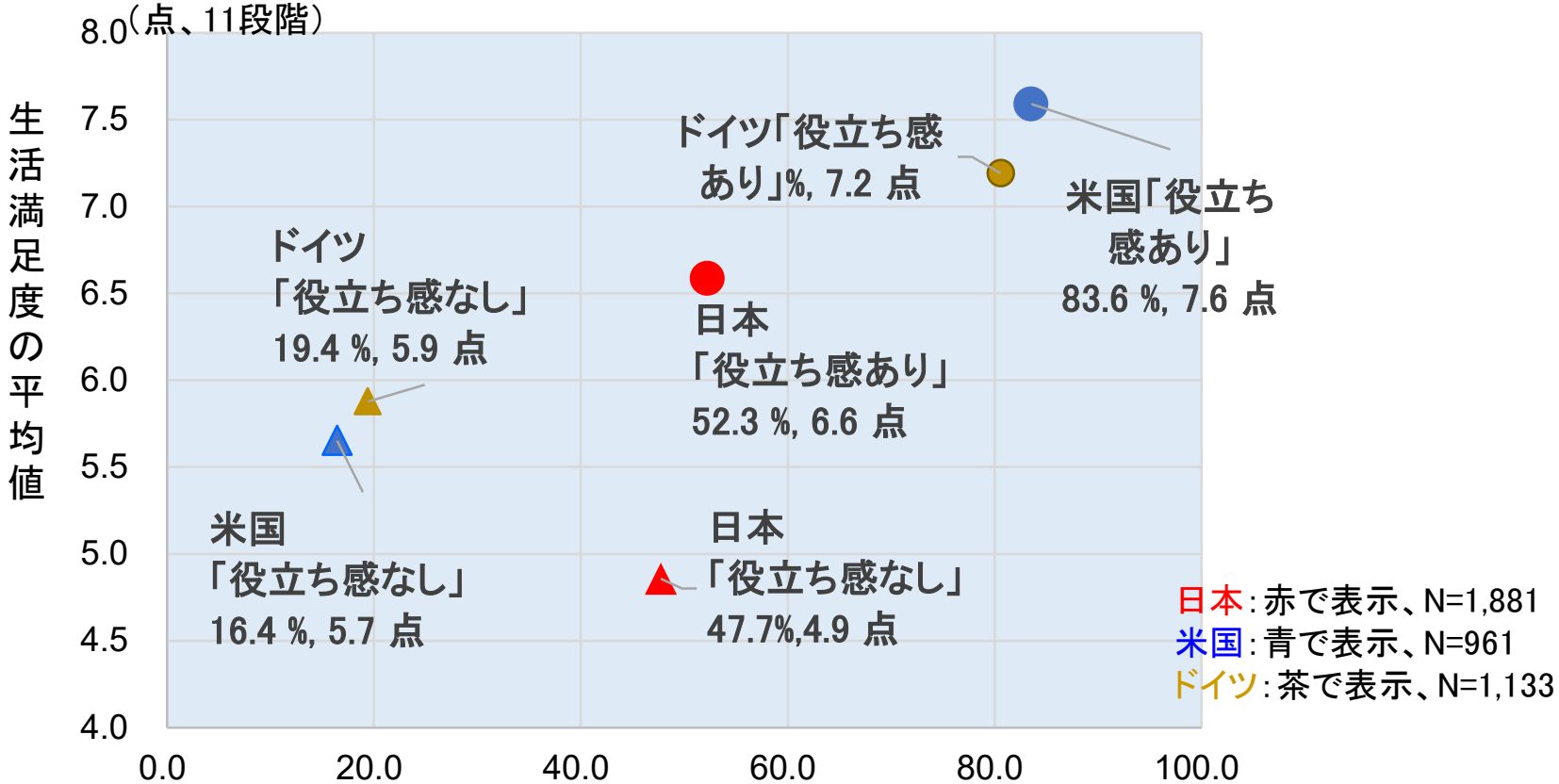
生活満足度

	ダッシュボードでの生活満足度・SWB項目	生活満足度	ユーダイモニア評価	ヘドニア評価	他の分野
日本	● 生活満足度	○			・各分野の満足度 ・13分野
イギリス	＜Personal Wellbeing＞ ● 生活満足度 ● 人生の意義・目的に照らした評価 ● 短期的な幸せ、不安	○	○	○	・9分野
フランス	● 生活満足度	○			・9分野
イタリア	＜Subjective Wellbeing＞ ● 生活満足度 ● レジャー時間の満足度 ● 5年後の自分の状況	○	△ ・レジャー ・5年後期待		・11分野
NZ	＜Subjective Wellbeing＞ ● 生活満足度 ● 人生の意義・目的に照らした評価	○	○		・21分野
カナダ	＜Subjective Wellbeing＞ ● 生活満足度 ● 人生の意義・目的に照らした評価	○	○		・14分野

（出典）松下（2023）に基づき作成

民間シンクタンクによる日米独アンケート調査結果から

◆「仕事・学業・家事が世の中の役に立っている」と感じない割合が日本では高い（約半分）
◆ 役に立っていると感じる者と比べ、生活満足度が有意に低い。



「役に立っている」と感じる回答者、感じない回答者の割合
（無職を除く回答者に占める割合）

（出典）（一社）経済社会システム総合研究所「KAITEKI研究会」『社会課題に関する3か国（日本・米国・ドイツ）意識調査　ー生活者、働き手、消費者、投資家、有権者としての意識ー』（2022年10月27日公表）より作成。
18歳から69歳対象のインターネット調査、調査時期2022年7月～8月。

ウェルビーイング指標の政策プロセスへの活用

- ウェルビーイング指標と政策：3つのフェーズ

  1. 計測
  2. 政策立案（課題設定、優先順位付け）
  3. 政策評価（事前、事後）

- 厳密なEBPMが求められるor適用可能なフェーズ・分野・場面は？

ウェルビーイング指標を政策の評価基準にする試み（英国）

・GreenBook2020：非市場での社会的費用・便益分析の方法として、従来の方法に加え「ウェルビーイング」を採用することを明記
・2021年7月公表の付属書で、ウェルビーイングのインパクトを金銭評価する方法を説明→今後、政府、公的機関で標準化したプロセスで金銭評価可能に。

①まず、特定の政策措置が生活満足度（0～10点評価）に与える影響（因果関係）を推計する

②Guidanceが推奨する換算基準：
0～10点評価での生活満足度がある1年で1点増える（WELLBYウェルビー）ことの価値を13,000ポンドと評価する（低位10,000ポンド、高位16,000ポンド）※計算根拠はGuidanceのAnnex2に概要を掲載、元のDP “Wellbeing discussion paper :monetisation of life satisfaction effect sizes” をHM Treasury が2021年7月公表、

③①で導かれた因果関係（係数）を用いて②の換算基準で金銭換算する

例.
特定の介入により生活満足度（0～10点評価）が2年間にわたり0.2ポイント改善した場合、

１人あたり1年間のウェルビーイングの変化の金銭価値（2019年価格）は、

ウェルビーイングの価値＝0.2×13,000ポンド　＝　1年2,600ポンド（が２年間）と評価
推計範囲：1年2,000～3,200ポンド（2年間）

（出典）松下（2023）をもとに記載 、HM Treasury ”Wellbeing Guidance for Appraisal Supplementary Green Book Guidance”（2021 July）Box 7を参照

NZ：ウェルビーイングの傾向を分析⇒弱点や悪化している分野を特定

	OECD諸国と比べた「強み」	OECD諸国と比べた「弱点」
長期的に改善	● 雇用（低失業） ● 空気の質	● 安全の低さ（犯罪や安全、いじめ、交通事故死）（改善も） ● 改善しているが、家計所得の平均が低い ● 特に男性の長時間残業、低いWLB 満足度
横ばい	● 成人のスキル・職業資格は高水準を維持 ● 政治参加（若年層は低い） ● 社会的つながり（アジア人ではやや弱い）	● 住宅価格が高い ● 若年層のニート率 ● 10 代の自殺率が OECD 諸国で最も悪い状況
長期的に悪化	● 生活満足度は比較的高いが、若干低下傾向 ● 自己申告の健康状態は良いが低下傾向 ● 孤独感は低いが、特に若年層で増大傾向	● 心理的不安が悪化。特に若年層、女性、マオリで悪化 ● 学生の学力（達成度）調査で悪化傾向

（出典）松下（2023、表7）。ニュージーランド財務省　New Zealand Treasury（2022年11月）, " Te Tai Waiora Wellbeing in Aotearoa New Zealand 2022."に基づき作成

- 本日の発表の元になった論文

臼井 恵美子・佐藤 繭香・松下 美帆（2022）「新型コロナウイルス感染症の影響下におけるワーク・ライフ・バランス」『経済研究』第73巻第4号, pp. 358-391

松下　美帆（2023）「ウェルビーイング指標の政策活用：海外事例と日本への示唆」一橋大学経済研究所世代間問題研究機構ディスカッションペーパー第699号